

南小たば風通信 2019

令和元年12月9日 第26号(文責 佐藤)

指導主事訪問 5年生 国語科授業 事後研の記録

今号では、5年生の授業の事後研で話し合われた内容をまとめました。5年生の特設授業、他の学級も授業を公開していただいていたありがとうございました。



5年生 国語 本のすいせんをしよう

『雪わたり』 ～C読むこと～

◎授業者から

《稲船先生》

- ・最後までたどり着かなかった。前段、子ども達が不安がっていたので、少し補足しながら多めに説明をした。
- ・ポスターや新聞などにまとめるために読んでいったが、まだ不十分かも。あらすじを書くポイントを把握していない児童が多かったように思える。1文1文を短く、語尾の工夫などが児童の交流から出てくればと思い、授業を進めた。
- ・見通しをもてない子を支えることを大切にした。
- ・登場人物の関係の変化に着目しながら考えられなかった子が3名いた。その児童には問いかけを試してみた。⇒提示の時点で児童の考えが整理される発問をすればよかったと反省している。
- ・人物像、リズムのある表現、ファンタジーとは、あらすじの書き方、などを確認しながら授業を進めてきた。



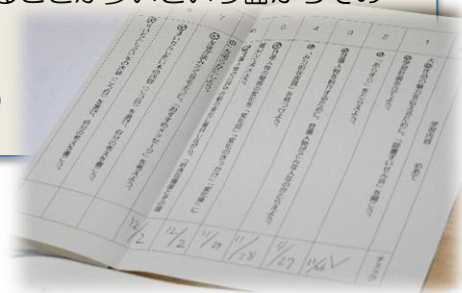
齋藤真寛指導主事よりグループ協議前に考えてもらいたいこと

- ①本時が前時の内容とつながって、うまく進むと予想していたか？
- ②単元を通して意識させたい言語活動と前時のつながりをどうお考えか？

◎グループ別協議の内容

<Aグループ>

- 児童が一生懸命。
- 見やすい掲示、本文を全文掲示して意見の相違が見やすかった。
- 教師の説明がわかりやすく、活動しやすそうだった。
- 変化に着目しながら…という文言で状況を絞ったことで、児童の考えの幅が狭まったのではないかと。単元計画…二時間目のあらすじを捉える時間の入れ替えなども一つの方法かも。
- 《稲船先生より》中心人物の気持ちは、他の人物の言動によって変わることが多いという面からそのようなめあてにした。
- 3つのグループくらいに分けて話し合えばよかったのではないかと。
- 話し方、聞き方の部分を鍛えていく。(話し言葉ではない話し方で。)



<Bグループ>

○めあてと評価の部分はどう児童に落とし込んでいくか。

○変化や好きな場面…本時では今までの授業の中で、好きな部分を選んでいくとよかったのかも。そのうえで、ポスターなり新聞なりの言語活動を位置づける。

<Cグループ>

○あらすじの確認をしたことで、児童が理解できていたが、掲示物をうまく活用できると時間短縮になる。

○めあての“せりふや行動の変化に着目して”の言葉が児童にとって難しかったかも。

○前時とのつながりとだけ考えるとつながりは難しくなるかもしれないが、前三時間とのつながりから好きな場面を選ぶと捉えると単元計画はスムーズに。

○全文ふせんで意見を把握することはいい方法だった。

○意見の交流のさせ方は低学年から目的をもって行うことが大事。



◎齋藤真寛 指導主事より

○宮沢賢治を選んだことに敬意。

○個人的に教科書の文学作品は、教科書からなくなってもいい、好きに読んだ方がいいと思ってきた。

○どの学年も見通し(めあて)をもって学習活動に励むことができていた。

○研究の積み重ねとオリジナリティを真摯に考えて授業に組まれている。

○R君と私は同じ感覚の読み方をしていた。授業者の意図とは違ったかもしれないが、リズム、表現の良さに着目していた。文章の言葉から自分の考えた文章に書きかえる深い学びをしていた。が、この授業ではB評価にならない。授業の組み方を考えなければならぬと勉強になった。

○H君、自分の読み取りの仕方が違っていると指摘されていた。でも、この指導案で意図した内容ではない。どう対応すればよいのか。泣かなかったのが、普段からの児童間の関係性はできあがっている。

○稲船先生の指導案を全面肯定的に捉えて話をしたい。

- ・指導事項、ねらいにブレがない。
- ・ズレていないものをズレないで扱っていくかを大切に。
- ・指導事項があつての言語活動(例)。言語活動に寄りがちになるが、今回は最終的に他の宮沢賢治の作品の推薦文を書くことなので、単元を通しての言語関係というおさえなのではないか。
- ・単元計画…5時間目で一旦、終わって、6と7を削ってもよかったのでは。
- ・ねらいを達成するために指導計画を組んでいく。
- ・今回の対話は、しっかり書けているので、書いたものを読むだけでも良かったかも。個人内での対話、先哲(教科書に書いてある内容)と向き合うことも対話として位置づけられているので。
- ・活動内容が多くて、読む、話す・聞く、書く活動があつた。絞ってもよい。
- ・児童に“視点を与える”ことが大切。

◎吉川校長先生より

○人がいない中、稲船先生に負担をかけてしまった。

○雪わたりの授業を通して、各々、実践に活かしてほしい。

○言語活動の設定、対話的な活動の位置づけを考えていかなければならない。

○新学習指導要領に応じた児童がわかりやすい授業づくりを考えていきたい。

○集団と個、両方に目を置いて授業をつくっていく。それを想定して授業を構想することが大切。



お知らせ 18日(水)の研究日は、これまでのたば風通信をもとに

今年度の公開研究会の参加報告会を行います。よろしくお願いします!

飯高先生(弘前大附属小) → 庄山先生(函教大附属小) → 三上先生(厚沢部小)

→ 齋藤先生(全道国語研) → 佐藤先生(今金小) → 稲船先生(道徳関係) → 教頭先生・校長先生から